

特別支援学級 国語科学習指導略案

知的障害特別支援学級（はばたき学級1組）
8人（1年生2人，2年生2人，3年生4人）

指導者 新 堂 奈 菜

1 単元名 おてがみをかこう

2 単元の目標

- 日常生活に必要な身近な言葉について理解し，手紙を読んだり書いたりすることができる。 【知識及び技能】
- 日常生活の中で体験したことを思い出しながら，手紙で伝えたいことを考え，自分の思いや考えをもち，互いの手紙のよさについて意見を出し合ったり，よりよい言葉や表現について話し合ったりすることができる。 【思考力，判断力，表現力等】
- 手紙で伝えたいことや，自分の思いや考えを，自分なりの方法で表現し，書くことができる。 【思考力，判断力，表現力等】
- 手紙や言葉のもつよさについて先生や友達に伝えようとするとともに，自分の思いや考えを広げたり深めたりしながら，手紙を書こうとしている。 【学びに向かう力，人間性等】

3 単元で育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

問題発見力	これまでの学習や日常生活について振り返り，手紙についての「自分の問い」を見いだす力
見通す力	「自分の問い」の解決に向けて，これまでの学習や生活の経験を生かしながら手紙の書き方や課題の解決方法を考える力
協働力	「自分の問い」の解決に向けて，互いの作品のよさや，よりよい言葉や表現について友達と意見を出し合ったり，話し合ったりする力
振り返る力	手紙や振り返りカード等で学習を振り返り，できるようになったことや自分の成長を捉える力

4 単元設定の理由

本学級の子供は，これまでに平仮名を読んだり，書いたりすることを中心に学習を行ってきた。また，招待状を書いたり，行事ごとに絵と文で感想を書いたりする学習も進めてきた。しかし，促音や拗音が抜けたり，どのようなことを書けばよいか分からなかったりするなど，文章を正しく書くことが難しく，書き出すまでに時間が掛かることがある。また，自分の伝えたいことをまとめることが難しい実態がある。

そこで本単元では，身近な人にお礼の手紙を書くという活動を通し，語句や文章を読んだり書いたりすることで，日常生活に必要な身近な言葉に関する知識とそれらを読み書きする技能を身に付けられるようにする。その際，平仮名表や特殊音節表などの個に応じた教具(以下，おたすけグッズ)を提示することで，これまでの学習の経験を基に，課題を解決することができるようにする。また，日常生活の様子を動画や写真で振り返る場を設定することで，書きたいという意欲を高め，感謝の気持ちを伝えたいという思いをもつことができるようにする。その際，思考共有ツールを提示することで，自分の思いや考えを表出できるようにする。さらに，手紙のよさや文章に対する感想などを出し合う場を設定することで，手紙や言葉のもつよさを感じ，自分の思いや考えを広げたり深めたりしながら，手紙を書くことができるようにする。

このような学習を通して，日常生活に必要な身近な言葉に関する知識とそれらを読み書きする技能を身に付け，手紙を読んだり書いたりすることができるようになることを考える。また，手紙で自分の思いを伝えることができたときの喜びや気持ちよさ，達成感を味わい，主体的に自分の思いを伝えようとする意欲が高まるものと考え。さらに，手紙を読んだり書いたりすることは，今後の国語科における，文章で自分の思いや考えを表現する学習につながるものであると考える。

5 指導計画※次ページに記載

6 本時(7/8)

(1) 目標

個人目標	A児 (1年)	促音や拗音を使って，手紙を正しく書くことができる。	E児 (3年)	自分の思いや考えを，5文以上で手紙に書くことができる。
	B児 (1年)	手本を見ながら，手紙を書くことができる。	F児 (3年)	手本を見たり空欄に書き込んだりして，手紙を書くことができる。
	C児 (2年)	ワークシートの空欄に書き込んで手紙を書くことができる。	G児 (3年)	自分の思いや考えを，3文以上で手紙に書くことができる。
	D児 (2年)	手本を見ながら，自分の思いを手紙に書くことができる。	H児 (3年)	自分の思いや考えを，手紙に正しく書くことができる。

5 指導・評価計画 (全8時間)

◆重点評価項目

過程時間	つかむ・見通す	調べる	深める		振り返る・生かす	深める		振り返る・生かす	
	1	2	3	4	5	6	7 (本時)	8	
学習活動	1 手紙を書いたり、もったりした経験について出し合う。 2 本単元の学習課題を決める。 【本単元の学習課題】 お手紙を書こう。	1 学習の流れを確認する。 2 前時を振り返る。 3 学習課題を確認する。 【本時の学習課題】 お手紙の書き方を知ろう。 4 本時の「自分の問い」を考える。 5 解決方法や活動の流れを確認する。 4 教師が準備した二つの手紙を比較し、よい点や悪い点を考える。 5 正しく書いている手紙をワークシートに視写する。 6 推敲する。 7 発表する。	1 学習の流れを確認する。 2 前時を振り返る。 3 学習課題を確認する。 【本時の学習課題】 お手紙に何を書きたいか考えよう。 4 本時の「自分の問い」を考える。 5 解決方法や活動の流れを確認する。 6 動画や写真を見て、手紙に書くことを考える。 7 ワークシートを使って書くことをまとめる。 8 推敲する。 9 発表する。	先生にお手紙を書こう。 6 おたすけグッズやワークシートを選ぶ。 7 手紙を書く。 8 推敲する。 9 交流する。 (1) 話し合う。 (2) 発表する。 (3) 手紙を渡す。	お手紙を書いてよかったことや難しかったことを考えよう。 6 動画や写真を見て、振り返る。 7 おたすけグッズやワークシートを選んで感想を書く。 8 推敲する。 9 発表する。	1 学習の流れを確認する。 2 前時を振り返る。 3 学習課題を確認する。 【本時の学習課題】 お手紙に何を書きたいか考えよう。 4 本時の「自分の問い」を考える。 5 解決方法や活動の流れを確認する。 6 動画や写真を見て、手紙に書くことを考える。 7 ワークシートを使って書くことをまとめる。 8 推敲する。 9 発表する。	友達にお手紙を書こう。 6 おたすけグッズやワークシートを選ぶ。 7 手紙を書く。 8 推敲する。 9 交流する。 (1) 話し合う。 (2) 発表する。 (3) 手紙を渡す。	できるようになったこと、よかったことを考えよう。 6 動画や写真を見て、振り返る。 7 おたすけグッズやワークシートを選んで、感想を書く。 8 推敲する。 9 発表する。	
	3 本時の学習課題を確認する。 【本時の学習課題】 お手紙をもらおうとどんな気持ちになるのだろう。 4 教師から手紙をもらい、そのときの気持ちについて話し合う。 5 手紙を渡す相手を決める。 6 「おてがみメーター」で自分の姿を確認する。 7 単元を通して、目指す自分の姿を考えて記録する。	◆ 進んで考えを伝えたり、手紙を書こうとしたりしている。【主体的に学習に取り組む態度：観察・ワークシート】 ◆ 手紙で伝えたいことや、自分の思いや考えを、自分なりの表現方法で書いている。【思考力、判断力、表現等：観察・ワークシート】 ◆ 日常生活に必要な身近な言葉を使って手紙を書いている。【知識・技能：観察・ワークシート】							
	8 本時の学習を振り返る。 9 次時の学習を知る。	8 本時の学習を振り返る。 9 次時の学習を知る。	10 本時の学習を振り返る。 11 次時の学習を知る。			10 本時の学習を振り返る。 11 次時の学習を知る。		10 「おてがみメーター」を使って、単元全体を振り返る。	
	学習の振り返り	・ 手紙をもらおうと嬉しいな。友達や先生に手紙を書けるようになっていきたいな。	・ お手本を見たり、おたすけグッズを使ったりすると、手紙を書くことができそうだ。	・ 友達の手紙によい言葉が使われていたな。次に手紙を書く時に使ってみたいな。	・ 手紙を書いて、喜んでもらえてよかったな。これからも手紙を書きたいな。				
	主な教師の手立て	必要性		自律性		関係性		有用性	
		○ 手紙をもらったときの気持ちを考えたり、日常生活の様子を動画や写真で振り返る場を設定したりすることで、「お礼の手紙を書きたい。」という「自分の問い」をもつことができるようになる。 ○ 手紙を渡している様子の動画を視聴することで、子供自身が目指す自分の姿を捉え、身に付ける知識及び技能の価値を感じ、手紙を書きたいという意欲をもつことができるようになる。	○ 今までの学習経験を想起する場を設定するとともに、おたすけグッズを提示することで、自分なりの課題解決方法を考えることができるようになる。	○ 思考共有ツールを選択する場を設定することで、自分の思いや考えをもって話し合うことができるようになる。 ○ 書いた手紙を発表する場を設定することで、自分や友達がかいた文章のよさを実感することができるようになる。	○ 「おてがみメーター」で自分の成長に気が付き、できるようになったことを振り返ることで、身に付けた知識・技能を実感できるようにする。 ○ 手紙を渡している様子を動画で視聴することで、手紙を喜んでもらったことを実感し、自己有用感を感じられるようになる。				

6 本時(7/8)

(2) 展開

教師の言葉掛け

予想される子供の反応

◆ 評価に関すること

過程 (分)	主な学習活動と予想される子供の反応	主な教師の手立て(㊸:必要性 ㊹:自律性 ㊺:関係性 ㊻:有用性)
つかむ・見通す(8)	<p>1 学習の流れを確認する。</p> <p>2 前時を振り返る。</p> <p>3 学習課題を確認する。 【「自分の問い」づくりタイム】</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">書き方に気を付けて、友達にお手紙を書こう。</p> <p>4 本時の「自分の問い」を考える。</p> <p> これまでの学習を生かして、友達に手紙を書きたいです。</p> <p>5 解決の方法や活動の流れを確認する。</p> <p>6 手紙を書くときに使いたいおたすけグッズやワークシートを選ぶ。 【「自分の問い」追究タイム】</p>	<p>㊸ 前時で書いた手紙やワークシートを使って学習を振り返ることで、前時までの学習を想起し、学習課題を確認することができるようにする。</p> <p>㊸ 手紙を書いて喜んでもらえた様子やはばたき学級の友達との日常生活の様子を動画や写真で振り返ることで、「お礼の手紙を書きたい。」という意欲を高めることができるようにする。</p> <p>㊸ いくつかの絵カードを準備することで、一人一人が自分に合った表現方法で「自分の問い」を考えたり、記録したりすることができるようにする。</p>
調べる(5)	<p> どのおたすけグッズやワークシートを使って手紙を書きたいかを選んで考えましょう。</p> <p> 平仮名表を見て、正しく手紙を書きたいです。</p> <p> ワークシートの空欄に自分の気持ちを入れて、手紙を書きたいです。</p>	<p>㊹ 学習の流れを活動マップで確認することで、活動の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>㊹ 今までの学習方法を想起させることで、経験を基に課題解決の方法を考えることができるようにする。</p> <p>㊹ 平仮名表や特殊音節表などの様々なおたすけグッズを準備することで、子供が自ら選択して活用することができるようにする。</p> <p>㊺ 自分に合った思考共有ツールで表現することで、自分の思いや考えを互いに伝え合うことができるようにする。</p>
深める(25)	<p>7 手紙を書く。</p> <p>A 児・B 児・D 児 ワークシートを使って、簡単な文(2~3文)を書く。</p> <p>C 児・F 児 ワークシートを使って、空欄に書き込む。</p> <p>E 児・G 児・H 児 ワークシートを使って、自分の思いや考えを文で書く。</p> <p>8 推敲する。</p> <p>9 交流する。 【「自分の問い」交流タイム】</p> <p>(1) グループで互いの手紙のよさについて話し合う。</p> <p>(2) 話し合ったことを発表する。</p> <p>(3) 手紙を渡す。</p>	<p>(個に応じた具体的な手立て)</p> <p>A 児 平仮名表や特殊音節表を提示することで、手紙に書きたいことを正しく書くことができるようにする。</p> <p>B 児 手本や平仮名表を提示することで、手紙に書きたいことを正しく書くことができるようにする。</p> <p>C 児 教師が個別に言葉掛けをしたり、手本を見せたりすることで、手紙を書くことができるようにする。</p> <p>D 児 教師が個別に言葉掛けをしたり、手本や特殊音節表を提示したりすることで、手紙を書くことができるようにする。</p> <p>E 児 接続語表を提示することで、自分の思いや考えを分かりやすく5文以上で書くことができるようにする。</p> <p>F 児 教師が個別に言葉掛けをしたり、気持ちカードや特殊音節表を提示することで、手紙を書くことができるようにする。</p> <p>G 児 手本や接続語表を提示することで、自分の思いや考えを手紙に書くことができるようにする。</p> <p>H 児 例文を示すことで、自分の思いや考えを分かりやすく手紙に書くことができるようにする。</p>
振り返る・生かす(7)	<p>10 本時の学習を振り返る。 【「自分の問い」振り返りタイム】</p> <p> 友達に手紙を正しく書くことができたのはどうしてですか。</p> <p> 平仮名表を見て、平仮名を正しく使いながら、手紙を書くことができたからです。</p> <p> ワークシートを使って、自分の気持ちや理由を書くことができたからです。</p> <p> 平仮名表を使ったり、ワークシートを使ったりすると、手紙を書くことができますね。</p> <p>11 次時の学習を知る。</p> <p> 次の学習は、「お手紙を書いてよかったことの発表」だな。できるようになったこと、嬉しかったことを発表したいな。みんなも手紙を書いたりもらったりしてどんな気持ちになったのか聞いてみたいな。</p>	<p>◆ 日常生活に必要な身近な言葉を使って、手紙を書くことができる。 【知識・技能：観察・ワークシート】</p> <p>㊻ 振り返りの際に、振り返りの話型や表情カードを提示することで、活動を振り返ることができるようにする。</p> <p>㊻ 「おてがみメーター」で自分の姿を振り返ることで、自分の成長に気づき、手紙を書きたいという意欲を高めることができるようにする。また、できるようになったこと、分かったことを記述することで、自分の変容や成長に気づくことができるようにする。</p>

必要性

自律性

関係性

有用性

知的障害特別支援学級（はばたき学級1組） 国語科 授業デザインシート

1 単元名 おてがみをかこう

2 単元で育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

問題発見力	これまでの学習や日常生活について振り返り、手紙についての「自分の問い」を見いだす力
見通す力	「自分の問い」の解決に向けて、これまでの学習や生活の経験を生かしながら手紙の書き方や課題の解決方法を考える力
協働力	「自分の問い」の解決に向けて、互いの手紙のよさや、よりよい言葉や表現について友達と意見を出し合ったり、話し合ったりする力
振り返る力	手紙や振り返りカード等で学習を振り返り、できるようになったことや自分の成長を捉える力

3 単元の授業デザイン

本単元で育成を目指す資質・能力と特に関わりのある学習活動において以下のような手立てを行い、その有効性を検証しながら授業をデザインすることにした。

	目指す子供の姿	特に関わりのある教師の手立て	時	子供の反応（●課題 ☆改善点）
問題発見力	「友達や先生にお礼の手紙を書きたい。」などという「自分の問い」をもつことができている。	〈必要性を実感する教師の手立て〉 ○ 手紙をもらったときの気持ちを考えたり、日常生活や前の時間の学習の様子を動画や写真で振り返ったりする「自分の問い」づくりタイムを設定する。		
見通す力	自分なりの課題解決方法を考えたり、自分に合ったおたすけグッズを選択したりしながら、手紙を書いている。	〈自律性を実感する教師の手立て〉 ○ 今までの国語の学習や生活の経験を想起する場や様々なお助けグッズを提示し自分に合ったおたすけグッズを選択する「自分の問い」追究タイムを設定する。		
協働力	自分や友達が書いた手紙の文章のよさを実感している。	〈関係性を実感する教師の手立て〉 ○ 書いた手紙について、そのよさを互いに話し合う「自分の問い」交流タイムを設定する。		
振り返る力	「おてがみメーター」で自分の成長を実感し、達成感や成長の喜びを味わっている。	〈有用性を実感する教師の手立て〉 ○ 「おてがみメーター」で自分の成長に気付き、できるようになったことを振り返る「自分の問い」振り返りタイムを設定する。		